

「転倒による前歯の脱臼、唇の裂傷が後遺症なく改善したケース」

春山 留理子

男児 2歳

【主訴】 転倒による前歯の脱臼、唇の裂傷

【具体的内容】

室内で三輪車に乗っていたところ転倒して顔面を強打、ショックと痛みでしばらく泣き叫ぶ。

転倒の衝撃で上の前歯 1本が奥に傾き位置がずれ、唇は切れて出血。

歯科医院にて麻酔をし、前歯の脱臼処置、歯の位置を少しだけ元の位置に戻すことができた。歯の根元の骨折はなかったが、神経に及んでいる可能性はあると診断される。

【レメディー選択】 (2023年8月2日)

Acon.30C , Arn.30C : 転倒後、5分おきに4回リピート

Mag-p.30C , Calen.30C : 歯科医院に行くまでの間に30分おきに3回リピート

Hype.30C , Bell.30C , Calen.30C , Arn.30C , Mag-p.30C :

歯科医院にて処置後、1日3回(朝、昼、夜)1週間

Calen. マザーチンクチャー: 水筒に7~8滴程度垂らして10日間

Echi. マザーチンクチャー: 水筒に7~8滴程度垂らして10日間

Cクリーム: 唇の裂傷部分に痛みがなくなるまで5日間

【レメディー選択の根拠】

講義で習ったこと、『ホメオパシーin Japan』のレパートリーを参考にし、手元にあるキットから以下のレメディーを処方。

Acon.30C : 講義の中で、「ショック、パニック No.1 のレメディー」「トラウマになりかねない恐怖によい」と習い、まさにそのような事態だと思い選択。

Arn.30C : 講義の中で、「怪我・事故 No.1 のレメディー」、「怪我」というキーワードと習ったため選択。

Mag-p.30C : 『ホメオパシーin Japan』のレパートリーに「痛み全般に適合するレメディー」とあったため選択。

Calen.30C : 講義の中で、「傷の No.1 レメディー」「化膿予防にも良い」と習い、唇の傷と歯茎の化膿予防のため選択。

Hype.30C : 『ホメオパシーin Japan』のレパートリーに「歯の麻酔注射後」とあり、講義の中でも「歯の痛み、歯の神経痛のような痛みによい」と習ったため、歯科医院での麻酔処置後に選択。

Bell.30C : 講義の中で、「患部の脈打つようなズキズキした痛みによい」と習い、本人もズキズキ痛いということで選択。

Calen. マザーチンクチャー：講義の中で、「除菌・抗菌作用がある」と習い、歯茎の化膿予防に選択。

Echi. マザーチンクチャー：講義の中で、「感染症予防によい」と習い、歯茎の炎症からの感染症予防のため選択。

C クリーム：講義の中で、「傷によい」と習い、唇の傷に選択。

参考図書：『ホメオパシー in Japan』 由井寅子先生著 ホメオパシー出版

【経過】

三輪車で転倒直後、とっさに手元にあったキットから Acon. と Arn. を 5 分おきに 4 回リピートしてとらせたところ、次第にパニックは落ち着く。

その後歯科医院に行くまでの間、Mag-p. と Calen. をとりながら様子を見ていたところ、お素麺を食べ、また三輪車に乗れるくらいの余裕がみられた。

歯科医院では麻酔をして脱臼した歯の位置を元に戻す処置が行われたが、元の位置に完璧に戻すことはできず、やや傾いたまま帰宅。

帰宅後、Hype., Mag-p., Bell., Calen., Arn. を 1 粒 1 日 3 回と水筒に Calen. と Echi. のマザーチンクチャーを入れた水を飲ませ続けたところ、次第に歯の痛みは落ち着き、1 週間後には痛みはほぼなくなる。

歯科医院で歯茎の化膿予防のために抗生物質が処方されたが服用せずも、歯茎の化膿もなく回復。

転倒から 10 ヶ月現在、歯の位置は元の位置に自然に戻り、違和感なく過ごせている。

【考察】

このケースの一つ反省点として、転倒直後の男児の歯の状態を見て、私自身はかなり動揺してしまったので、私自身も Acon. をとるべきであったことが挙げられる。

本人は事故がトラウマになることもなく、その後も三輪車で遊ぶことができたのは Acon. のおかげであると思われる。

4

しばらく患部の痛みが続き、食事も困難になりつつあったので、症状とその時の状態に合ったレメディーを複数コンビネーションでとることを試み、こんなにたくさんコンビネーションでとってもよいものかと一時迷いも生じたが、結果的に大事に至らず、速やかに回復したことはよかった。

歯科医院での麻酔処置は避けられなかったが、抗生物質などとらずに治癒できたこと、何より、歯が自然に元の位置に戻ってきていることにホメオパシーの偉大さを感じている。また、本人の自然治癒力を信じることができたのもよかったのではないかと思う。

このケースは私にとって、とても大きな経験となり、ますますホメオパシーの勉強に精進しようというきっかけになった。